

合格体験記

S. W. (通信)

■自己紹介

広島県地方都市在住の会社役員です。2次試験の受験日(10月25日)時点で61歳。2度目の挑戦で2次試験に合格できました。

前年(2019年)に1次試験を合格して、2か月の勉強期間を経て2次試験を受験したものの、結果はDACA、総合Bで不合格。結果的に事例Ⅰで粉碎していました。年齢的にも諦めムードが強かったのですが、あと1回受験資格があるし、もったいないので、「人生最後のチャレンジ」と位置付けて、もう1年だけ頑張ってみようと思った次第です。

中小企業診断士を目指している皆さん、できる限り若いうちに合格を目指してください。年をとると、①記憶力が低下し、②集中力が低下し、③経験が事例理解を邪魔し、④腰痛で80分の試験に耐えるのが苦痛になります。

■MMCを選んだ理由

前年(2019年)の2次試験対策は、某大手予備校の通学コースを受講しました。受講費用に加えて、地方都市から広島往復の新幹線代など交通費が1回約8,000円、計12回分かかりました。結果は不合格でしたが、事例ⅡとⅣがA、総合でB評価だったので、もう1年同じ大手予備校で頑張れば合格できるのではないかと考えましたが、最終的にはMMCを選びました。

MMCの通信を選んだ理由は、交通費等も含む費用負担の大きさなど経済的要素もありましたが、決め手は「MMCの模範解答のわかりやすさ」でした。2次試験に落ちた後、大手予備校の模範解答を入手しましたが、1年後これと同じような解答が書ける自信はなく、他社の講座内容も調べてみることにしました。

そんな中、MMCの講座説明会(徳川先生と中居先生)をYouTubeで聞きましたが、とにかくわかりやすく、これなら自分でもできるかと思いMMCの通信講座に決めました。もちろん、できることなら「通信」よりも「通学」の方がより効果的だと思いますし、今はZoomでも受講できますよね。

■私の勉強法

教材は基本的にMMCだけで十分だと思います。というより、再答案作成を含めると他の教材に手を出す余裕はありませんでした。私はステップ2から5まで受講、模擬試験は第2回～4回、加えてオプションのGW財務集中ゼミ、ファイナル財務事例講座、直前スパーリングの各講座も受講しました。

2次試験の答案作成に必要なのは、「①事例文、②解答のキーワード、③一次知識」

です。これらを設問文の題意に沿って80分で組み合わせると60点は取れるはずです。

そのために、以下の事項に取り組みました。

- ① 「解答の型」を覚える。
- ② 解答の「切り口」に慣れる。例えば、「営業面、設計面、生産面」や「QCD」など。
- ③ 解答の「マトリックス」を作成する。切り口ごとに、事例文の引用、解答のキーワードでまとめる。
- ④ 事例ごとの解答のキーワードを覚える。特に、事例Ⅲの問題と対応策は単語カードに書いて覚えました。
- ⑤ 最低限の一次知識を覚える。例えば、「多角化のメリット・デメリット」や「中途採用のメリット・デメリット」など。これも単語カードを使って覚えました。
- ⑥ 解答のマトリックスから答案を作成できるように繰り返す。演習にはヨコ書(20×20)の原稿用紙を使いました。

受講当初はなかなか点数が伸びませんでした。上記①～⑥を意識的に習得に努めることで、ステップ2から5までの答練を通じて徐々に点数が安定してきたと思います。

また、MMCから配布された財務・会計の計算問題集は大変有効でした。私は事例Ⅳが苦手ではなかったのですが、この問題集を毎日少しずつこなすことで基礎力を維持できたと思います。4～5回は繰り返し演習しました。通学コースでは、この問題集を毎回答練の後に30分で2問ずつ解いていたらしいです。

なお、私は通信コースだったのですが、時間管理にはかなり苦労しました。事例演習のために80分を確保できないこともありましたので、その時は40分で解答の型と解答骨子を作成する(マトリックス作成)、そして40分で解答用紙に記入する、という分割方式を取りました。結果的に、4事例連続、各80分で解答できたのは、第4回模擬試験と2回の直前スパーリングで本番の直前まで苦しみましたが、なんとか本番に間に合ったという感じです。

■ 過去問題

ステップ4が終わった頃から過去問(事例Ⅰ～Ⅲ)を7～8年分くらい解きました。その際、40分で解答骨子までを作成することを重視し、その骨子の切り口やキーワード、必要な1次知識などをMMCの模範解答集で確認することで、解答手順に慣れることに努めました。

また、事例Ⅳは過去11年分を2～3回は解きましたが、MMCの答練・問題集と過去問だけで対策は十分だと思います。特に、「経営分析」「キャッシュフロー」「CVP分析」の記述問題は、MMC流キーワードを用いて事前準備しておけば本番では楽になります。ただ、最近は記述問題が増えているので、財務・会計の関連知識の補強は必要かもしれませんね。

■おまけの話

1回目の2次試験対策で受講した大手予備校では、解答の中に織り込むキーワードごとに配点決まっています。当時受けた講座では、文章の読みやすさよりも、100字とか決まった文字数の中に得点につながると思う言葉をいかに多く詰め込むかが大事だと教えられました。

一方、MMCメソッドは事例文からの引用、解答の型、解答のキーワードを基本として、読みやすさ、分かりやすさを重視していると思います。

もちろん、大手予備校からも多数合格者が出ていますので、どちらがいいとは判断できませんが、私にはMMCメソッドの方が向いていたと思います。

■おまけの話 その2

受験生の皆さんは今から約10か月の長丁場になります。勉強も大事ですが体調管理も大切です。私は、2次試験日の3か月くらい前から本番に合わせて朝5時に起床して、平日は出勤前に財務問題を30分演習、土日は1時間の早朝ウォーキングで体力維持に努めました。

前回2020年度はコロナの影響で1次も2次も試験前に体温チェックがあり、体温が高ければ試験を受けることが出来ませんでした。口述試験も同様ですが、再試験がないので、せっかく2次記述試験に受かっても口述試験日に体温が高ければ、今までの努力が全て水の泡になります。なので、口述試験当日は本当にビクビクでした。体調管理は試験勉強と同じくらい重要です。

■最後に

徳川先生、中居先生、伊藤先生、勝山先生、中矢先生、西先生、1年間ご指導いただき、誠にありがとうございました。通信でしたので直接お話できる機会はありませんでしたが、どの先生も丁寧な添削・アドバイスをいただき、大変感謝しております。複数回受験される方が多い中、2度目の挑戦で合格できた最大の要因は、まさに「MMCとの出会い」であったと言っても過言ではありません。

2021年度合格を目指す受験生の皆さんがMMCメソッドを素直に習得し、合格できることを心より祈っております。

以上